

1750年代の フランス経済学の動き

——“Economistes”直前の Economistes ——

津 田 内 匠

一橋大学社会科学古典資料センター

Center for Historical Social Science Literature
Hitotsubashi University

1750年代のフランス経済学の動き[※]

— “Economistes” 直前の Economistes —

津 田 内 匠

本日お集りのみなさんは古版本を扱うライブラリアンですが、必ずしもみなさんが経済学の古版を扱われる方たちではありませんようですので、「1750年代のフランス経済学の動き」という題名になっていますが、細かく経済学の内容についてお話するというより、むしろこの時代の経済学の本の動きを大づかみにお話したいと思っています。副題として「“Economistes” 直前の Economistes」としましたのは、“Economistes”と呼ばれたケネー（Quesnay）を中心とする重農主義者たちの直前にいて経済学を模索していた人たち、つまり「エコノミストたち」と呼ばれなかったエコノミストたち、やがてケネーの出現後は忘れられたり、誤解されたり、隠されたり、伝説化されたりしたエコノミストたちの動きが、ちょうどこの1750年代のフランス経済学の動きそのものだからです。しかし1750年代という言い方は年代的に区切りのいい10年というだけで、副題のように、あまり光のあてられない10年という意味では、むしろモンテスキュー（Montesquieu）の『法の精神』（De l'esprit des lois）からケネーの『経済表』（Tableau économique）までの10年間と言った方がよいでしょう。この10年間は、ディドロ（Diderot）が唯物論への第一歩を踏みだした『盲人書簡』（Lettres sur les aveugles, 1749）やルソー（Rousseau）の第1論文『学問・技芸論』（Discours sur les sciences et les arts, 1750）やディドロとダランベール（d'Alembert）の編集による『百科全書』（Encyclopédie, 1751～1772）の刊行開始やルソーの第2論文『人間不平等起源論』（Discours sur l'origine de l'inégalité parmi des hommes, 1755）やエルヴェシウス（Helvétius）の『精神について』（De l'esprit, 1758）等の重要な著作を含むフランス啓蒙思想の最盛期の10年間です。この10年間に社会的にはどんな問題があったかと言いますと、1748年にはオーストリア継承戦争の結果、フランスは不利なエクス・ラ・シャペル（Aix-la-Chapelle）条約を押しつけられ、戦争の莫大な出費のためにひどい財政困難に陥っていました。また1750年代を通じて、とくに1756年からは英仏の7年戦争が始まり、アメリカとインドでの激しい植民地争奪戦争に明け暮れていました。英仏間の経済戦争は、要するに生産力の優位を争う戦いでした。イギリスは産業革命の準備期にありましたが、これをうけてフランスも、それまでコルベール（Colbert）の規則でがんじがらめに縛られていた生産と流通を全面的に解放すべき時期に来ていました。そのために経済学の議論が、この時期にはかつてなかったほど盛んになりました。しかしケネーが『経済表』で富の再生産の過程や国民経済の循環のしくみを解明するまでは、人びとはさまざまな方法で専ら模索していました。彼らはその一つとしてイギリスやスペインの経済学を翻訳したり紹介したり、あるいは自分たち自身でいろいろの試論を試みたりしました。しかし彼らの模索もケネーの出現以後はあまり顧みられることがなくなったのです。ではケネーの強い光に妨げられて、その様子がはっきり見えなくなったケネー直前のエコノミストたちの模索の動きを、当時の雑誌の動向と翻訳出版の傾向のなかで探ってみるとどうでしょうか。

※本稿は1981年3月20日「第一回社会科学古典資料講習会」での話を要約したものです。

付表Iを見ていただきますと、そこには18世紀の雑誌が二つとりあげられています。一つは『ジュルナル・デ・サヴァン』(Journal des sçavans)、つまり『学識者の雑誌』で、もう一つが『ジュルナル・エコノミック』(Journal œconomique)、つまり『経済雑誌』です。前者は経済学の専門雑誌ではなく、ずっと古くからある有名な書評雑誌、というより新刊の要約紹介雑誌です。後者はフランスの最初の経済雑誌です。

『ジュルナル・デ・サヴァン』の方のリストは各号から経済学関係の新刊紹介記事を抜きだしたものです。この表を大づかみに見てみますと、つぎのような四つ五つの特徴的な傾向があることに気づきます。第1の特徴は、この新刊紹介雑誌が1753年から急に経済学関係の本をとりあげ始め、1759年以降はまた急にとりあげなくなることです。第2の特徴は初めに翻訳ものが多く、つまり1753年と1755年に多く、あとはしだいに減って行くということ、第3の特徴は前半、つまり1755年までに地方アカデミーの懸賞課題の当選作の出版が目立つということ、第4の特徴は後半、つまり1755年以降になると翻訳ものが減るにつれて、フランス人自身の著作が増え、それも1755～57年の中期には各種の論争が多いということです。以上の特徴をまとめて言いますと、経済学関係の本は1753年から1758年に集中しており、この間に初めは重商主義の翻訳が多く、すぐそれに続いて地方アカデミーでの研究が現われるようになり、それも重商主義的なものと農業生産技術論とが半々ですが、それがしだいに規制か自由放任かをめぐる各種の論争的著作に変化し、最後には重商主義と重農主義的なものとが共存する形になっています。重農主義的といいますが、ここに現われている限りでは農業生産論という形をとっているにすぎません。ケネーは1758年には『経済表』の最初の印刷を試みたのですが、それはヴェルサイユ宮殿のなかだけでのことですから、それはまだ出版の動きに影響を与えていませんが、ケネーの影響が出版の上にも現われるようになる直前の様子はだいたいこんな風だったようです。1753年から1759年までの7年間に、重商主義研究から重農主義的技術論が現われるまでの目につく変化はありますが、それは揺れ動くような変化であって決して激しい変化ではありません。ケネーが一朝にして登場するわけではないことがわかります。

以上のいくつかの特徴をもう少し詳しく見てみましょう。1753年の最初の二つはスペインの重商主義者たち、ウスタリスとウリョアの翻訳です。前者をフォルボネが、後者をプリュマル・ド・ダンジュールが訳していますが、これらはヴァンサン・ド・グルネ(Vincent de Gournay)という人物のすすめで翻訳出版されました。この人物については、またあとでふれますが、1751年に通商監督官に就任し、1758年に辞任して翌1759年に死んでおります。彼はイギリスとの経済戦争に勝つために、国内では徹底した自由放任で生産力を解放すると共に、イギリスをみならって厳しい航海条令によってフランスの生産力を保護することを主張していました。彼はそのためにスペインの保護主義の著作を翻訳させています。(3)の『イギリスの商人』という本もグルネのすすめでフォルボネが翻訳したと言われています。これはチャールズ・キングが編集した雑誌論文集ですが、ここにはフランスに対するイギリスの保護貿易の主張が集められています。

グルネはアミアンの近くに領地を持っていました関係で、アミアンのアカデミーの経済学研究の指導を頼まれています。その最初の成果が1754年の(1)のクロード・カルリエの論文となって現われるわけです。1754年の(2)と(3)はグルネのすすめでウリョアを翻訳したプリュマル・ド・ダンジュールがイギリスのジョサイア・タッカー(Josiah Tucker)の本にヒントを得て、ほとんど同じ題名で翻案風に出版したのですが、英仏の生産力の較差を細かく比較分析したものです。(4)はやはりグルネにすすめられてウスタリスとチャールズ・キング編の『イギリスの商人』を翻訳したフォ

ルボネがディドロの『百科全書』のために寄稿したいくつかの経済学の項目を中心にまとめたものです。全編は英仏間の経済競争を強く意識して書かれておりまして、そのため保護主義の色の濃いものとなっています。(5)はイギリスのジョサイア・チャイルドの主著をグルネ自身が翻訳し(あるいはビュテル・デュモンと共訳し)たものです。チャイルドは東インド会社の総裁にまでなった人で、その特権的利益の上に立って自由交易論を唱えた人です。グルネはこの翻訳に『注解』をつけて自分の考えを述べることにしていましたが、この『注解』は出版を許されないまま失われてしまいました。最近発見された『注解』によりますと、グルネはチャイルドから交易と海運を強めること、とくに利子引下げが経済繁栄のために有利であることを学び、かつ交易の拡大のためには国内の規制を全廃し、かつ航海条令によって国内の生産と交易を保護し、イギリスに対抗するために国家機関によって内外の通商を一元化することを考えていました。

1755 年になると翻訳と地方アカデミーの出版と論争とが入り混って、時期的にも内容的にもちょうど分れ目となります。(1)と(3)は翻訳ではありませんが、イギリス人タルの新農法の詳しい紹介です。これはやがて重農主義が登場する、その技術的先駆けとなるものでして、この紹介は年度をこえて 1756 年の(2)と 1758 年の(3)にまで続き、1758 年の(7)や 1759 年の(2)の同じく重農主義的技術論の先導者の役割を果たします。1755 年の(2)はグルネの共訳者ビュテル・デュモンが彼自身の翻訳で出版される(5)と(6)のケアリの本を参考にして書いたものですから、準翻訳とみてよいでしょう。ケアリは東インド交易がイギリスの織物製造業を不利にすると考えて、東インド会社による完成品の輸入に反対し、国内の織物製造業を盛んにすることを主張していました。ビュテル・デュモンはフォルボネやプリュマル・ド・ダンジュールほどグルネと近い関係にあったかどうかわかりません。従ってこの翻訳にグルネが関与しているかどうかはわかりませんが、当時のイギリスの経済学の動きに最もよく精通していたグルネがこの翻訳を共訳者にすすめたとみても不自然ではありません。1755 年の翻訳出版で最も重要なものは(8)のカンティロンのもので、この本はもともとアイルランド人カンティロン自身が 1734 年に非業の死を遂げる前に、友人のためにあまり上手ではないフランス語に訳しておいたものを、パリで出版するにあたって、だれかフランス人が手を加えたものです。やはり翻訳といってよいでしょう。この本は重商主義と重農主義のちょうど継ぎ目にあたる性格をもっておりまして、同時にイギリスの経済学とフランスの経済学の両方の性格を持っています。カンティロンはこの本でイギリスの古典経済学の最初の人と言われるペティの考えをうけ継いで、土地と労働が富の源泉であると述べたのですが、ケネーはこの本から富の源泉としての土地の方だけをうけ継ぎ、その上カンティロンが粗描した経済の循環にヒントを得て『経済表』を構想したと思われる節もあります。確かなことは言えませんが、グルネはこの本の出版に関係したようです。この本はスミス (Smith) の『国富論』(The wealth of nations)以前には最もよくまとまっている経済学の本と言われますが、グルネも弟子たちにこの本の精読をすすめていたそうです。この翻訳が出版されて以後はイギリスの経済学の翻訳は 1757 年のデッカーのものを除いては出なくなります。1755 年の(4)と(7)は地方のアカデミーの出版でどちらも生産技術の改善にかんするものです。前者はグルネの指導するアミアンのアカデミーのもので、著者カルリエはグルネがアミアンで育成した著述家の一人でした。この二つの地方アカデミーの新刊を最後に地方アカデミーの出版物はこの雑誌には登場しなくなります。そして(9)と(10)はフォルボネによる二つの論争書です。以後は翻訳と地方アカデミーの出版に代って各種の論争書が増えて行きます。(9)はレヴァント交易における特権と規制の是非をめぐる論争書で、(10)は捺染綿布の輸入禁止の是非をめぐる論争書です。

1756 年の(1)はエルベールによる穀物取引の自由のための論争書で、(3、4)は貧しくなった貴

族が海運や卸売業に手をだすことの是非をめぐる、いわゆる商人貴族論の論争書で、この論争はさらに1757年の(3)にまで続いています。実際には1760年まで続きます。エルベールもコワイイエもグルネの近くの人でした。1756年の(5)はすでに出版の翌1751年には論争を呼んだ本の翻訳です。著者ペローニは一国が後進状態を離脱して先進国へと進出するための諸段階と政策を示しています。ダルジャンソン侯(marquis d'Argenson)はこれに反対して「自由放任」と呼ばれる最初の論文を書きました(1751年)し、後進状態を離脱するということは当時のフランスにとっては対英経済問題として興味深いテーマだったので、1755年にも訳され1756年にも訳されたのです。

1757年の(2)はグルネがブルターニュのレンヌに滞在中に直接指導して設立したブルターニュ農業協会の設立趣意書です。グルネの友人二人、アペイユとモントドゥアンとがそのなかで自由放任の原理にたって各分野での生産力の増大をアピールしています。(5)はイギリス議会での利子論争を翻訳し紹介したものです。訳者ギュア・デ・マルヴとグルネの関係は不明ですが、利子引下げはグルネがチャイルドからうけ継いだ主要テーマの一つでした。そして(4)で有名なミラボの『人間の友』が登場し、これは1758年の(1, 2, 9)とひき継がれます。ミラボはもともと重農主義的傾向のあった人ですが、ただ農村に人口を回復させることがフランス経済の繁栄をもたらす根本であると考えていました。この点はやがてケネーによって批判され、根本は人口ではなく資本であることを認めて、以後ケネーの重要な協力者となるのですが、この時点のミラボはまだ人口主義者でした。ミラボは一度グルネに会ってケネーや経済学について語ったことがあると回想しています。

1758年は『ジュルナル・デ・サヴァン』が経済学関係の新刊紹介を最も多くとりあげた年ですが、この年の特徴はつぎの三つになると思います。人口主義者ミラボの『人間の友』と重農主義的技術論(3, 7)と重商主義者オ・エゲルティ(5)とフォルボネ(6, 7, 8)とです。フォルボネはこのあと60年代になると、ケネーの最大の批判者となります。以上が『ジュルナル・デ・サヴァン』に現われた1750年代の新刊経済学書の動向です。この雑誌が経済専門雑誌ではなく、一般的な書評雑誌であるだけに、そこに現われている傾向はよくこの時代の動きを現わしているように思われます。

ではもう一つの雑誌『ジュルナル・エコノミーク』はどうでしょう。これは経済専門雑誌ですが、どちらかというと実用的記事の多い雑誌です。1751年に創刊されて、途中一度中断がありますが、1772年まで刊行されます。これはちょうど『百科全書』の創刊から完結までと同じ期間です。もう一つの『百科全書』のような実践的な性格も持っています。この雑誌は1757年に一度中断され、雑誌の性格も変わります。1757年までの第Ⅰ期に比べると、1758年以後の第Ⅱ期はさらに実用性に徹して行きますので、経済学の動きを知るには不向きなものとなります。ですからここでは第Ⅰ期分1751～1757年に限ってみましょう。この雑誌には論説欄のほかに、海外の思潮の紹介欄があります。この雑誌そのものの動向を研究するには、主としてこの二つの欄を正確に分析する必要がありますが、それは別の機会にゆずるとしまして、ここでは内外の新刊経済書にかんする記事を抜きだしてみました。あまり多くはありませんが、『ジュルナル・デ・サヴァン』に欠けている部分を補っている面があります。1751年から52年にかけては、まえに述べたペローニの『商業論』(1)をめぐるダルジャンソン侯の「自由放任」論(2)とこれへの批判(3, 4)とが活発です。ダルジャンソンの自由放任論が後進性を脱するための、生産力を高めるための自由放任論ではなく、観念的なものであったために批判はこの点に集中しています。1754年から1755年にかけて、穀物取引の自由を唱えたエルベールの『穀物取り締り論』がくり返し6回(6, 7, 12)もとりあげられていることは、自由放任論そのものが批判されていたわけではないことを示しているでしょう。ヒューム

の『政治論集』から「貿易差額」批判が2回(9)に分けて紹介されているのは、この1754年にヒュームの『政治論集』のフランス訳が二種類も出版されたことの影響でしょう。貿易差額といえば、対フランス貿易の不利を強調して保護主義を唱えたジーが最も多く、13回(8, 10, 11)もとりあげられているのは興味深いことです。これは、同じく対フランス保護を主張したチャールズ・キング編『イギリスの商人』がグルネのすすめでフォルボネによって訳されたのと同じケースでしょう。しかもこれらの記事はすべて、すでに1749年にモンテスキューの息子によって翻訳され出版されたものの抜粋と再録です。キングの『イギリスの商人』の翻訳に刺激されたものかもしれません。対英貿易戦略が重大な問題であったことを意味しているでしょう。ジーについて回数多く、9回(13)もとりあげられているのがタッカーです。プリュマル・ド・ダンジュルの『交易にかんする英仏の利点と不利点についての考察』がタッカーの本の翻案であったことはすでに述べました。プリュマル・ド・ダンジュルの方がタッカーより英仏の生産力の較差を強調しています。その翻案ものが1754年に出たあとで、タッカーの原著を改めて翻訳しているところに、この問題への関心の強さがうかがえると思います。ジーは翻訳が出たあとしばらくたって再録されたのですが、イギリスの貿易の独占体制を批判したデッカーの場合は翻訳(14)が出版される前年に抜粋が掲載されています。そして最後にグルネの指導で設立された「ブルターニュ農業・商業・技術協会」の活動報告(15)がとりあげられています。ここにも基本的にはグルネの経済学の模索の姿勢が反映しているとみてよいでしょう。しかしもうケネーが登場するところになりますと、航海条令の必要を力説し、もっぱらイギリスへの対抗という観点から経済の理論と政策を選択したグルネはもはや時代の人ではありませんでした。フォルボネとプリュマル・ド・ダンジュルは別ですが、その他の弟子たちはグルネからしだいに離れて重農主義的傾向を強めるようになりました。グルネの最も信頼の厚かったチュルゴ(Turgot)でさえ、グルネの死んだ年に発表した『讃辞』(Eloge de Vincent de Gournay)のなかで、グルネの自由放任の側面だけを強調して、というより誇張して、グルネの保護主義の側面は隠してしまいました。もう一人の弟子でしたモルレ(Morellet)はグルネの死後10年たった1769年に『商業辞典』(Dictionnaire du commerce)の『刊行趣意書』(Prospectus)のなかでグルネのたくさんの手稿を資料として用いることを誇らしく述べてはいますが、『商業辞典』が失敗に終ると、グルネの手稿類を出版することもなく行方定めずにしてしまったのです。1750年代のフランス経済学の動きの結末はケネーの華々しい登場とグルネのひそかな退場でもあったのです。

さて、つぎに1750年代のフランス経済学の動きの一つの特徴でありましたイギリス経済学の摂取のしかたとその意味を、もう少し国際状況のなかで見てみましょう。

付表Ⅱを見ていただきたいのですが、そこに四つの欄があります。左はしのⅠはフランスが自国語に翻訳したものです。その右となりのⅡはイギリスが自国語に翻訳したものです。さらにその右となりのⅢは、フランスの経済学書をイギリス以外の諸国がそれぞれの言葉に翻訳したもので、一番右はしのⅣは、イギリスの経済学書をフランス以外の諸国がそれぞれの言葉に翻訳したものです。

Ⅰについて見てみますと、さきの『ジュルナル・デ・サヴァン』の新刊紹介では1753年からとつぜん経済学書がとりあげられるようになったのですが、実際には1749年から50年にかけてジーの翻訳(1~3)が三回も版を重ねておりますし、『ジュルナル・デ・サヴァン』では1755年に初めてとりあげられたデュアメル・デュ・モンソによるタルの紹介(4)はすでに1750年にでています。これは1760年まで継続的に出版されたのですが、こういう続きものは一点と計算し、同じ翻訳でも版を重ねたものを別々に計算しますと、1749年から59年までに、Ⅰの欄では31点が数えられます。もっとも私の調査は不正確でしょうから、あまり厳密そうに数字を口にしてはいけないと思います。ど

うぞ概数とってください。またブリュマル・ド・ダンジュルがタッカーにヒントを得たもの(11～16)が翻訳であるかどうか問題がありますが、仮りにそうしますと、この31点のうちの5点(5, 6, 22, 26, 29)だけがイギリス以外の国のものですから、フランスは圧倒的にイギリスの経済学書に学んだことになります。それぞれ理論的内容や政策的立場はさまざまですが、どれにもフランスの対イギリス貿易をにらんでの実践的目的が読みとれます。

Ⅱの欄を見てみますと11点が数えられます。このうちの3点(4, 5, 7)がフランス以外の国のものですから、イギリスはフランスの経済学書からはあまり学んでいません。(1)と(3)は有名なサヴァリの『商業辞典』を翻訳し、かつイギリスの現状に合うように相当多く書き足したものですから、果して翻訳と言うべきかどうか、とくに(1)の場合は一種の刊行趣意書ですから、これもまた翻訳とみなすべきかどうか問題があります。しかし仮りにそうみなしても、これは思想や理論というよりは、むしろ技術に近いものです。(2)の場合はもちろん技術書です。(3)と(11)のシュリのメモワールを経済学書とみるのはかなり無理があるでしょう。(8)は、まえに説明しましたフランス最初の経済雑誌『ジュルナル・エコノミーク』に掲載された論文の抜粋翻訳集で、このなかにダルジャンソンの「自由放任論」が含まれていますが、これ以外は全部技術論の翻訳です。(9)はもともとタッカーの原案のものです。(10)は穀物取引の自由論です。そうしますと、イギリスが純粋にフランスに学んだものは3点(2, 8, 10)で、内容は技術論と自由放任論ということになります。

Ⅲの欄を見てみましょう。フランスの経済学書がイギリス以外の諸国に翻訳されたのは全部で18点あります。そのうちドイツ訳が9点(2, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 13, 14)——(14)は出版地コペンハーゲンのドイツ訳だが、ドイツ訳と計算します——で、スウェーデン訳が5点(1, 4, 9, 15, 18)で、デンマーク訳とイタリア訳がそれぞれ2点(10, 17)と(3, 16)です。

Ⅳの欄を見てみますと、イギリスの経済学書がフランス以外の諸国に翻訳されたのは全部で8点です。このうちスウェーデン訳が3点(4, 5, 6)で、あとはいずれも1点ずつオランダ訳(1)、スペイン訳(2)、ドイツ訳(3)、デンマーク訳(7)、イタリア訳(8)があります。

以上の数字は調査の範囲を機械的に1750年代に限って見てのことですし、調査それ自体も完全とは言えないと思いますから、あまり断定的に傾向を割りだすのは危険であろうと思います。しかしそういう風に不安定な数字であることを承知の上で、およその傾向を見てみましょう。Ⅲの欄の18点の原書のうち、なんらかの形でイギリスの要素が入っているもの、つまり(2)のイギリス人タルの新農法を紹介したデュアメル・デュ・モンソの翻訳や、ケアリの本に依存しているビュテル・デュモンの4点の翻訳(6, 7, 8, 11)や、初めの7節だけですがタッカーにヒントを得て書かれたブリュマル・ド・ダンジュルの2点の翻訳をⅢの欄から除いてⅣの欄に加えますと、つまり、フランスの経済学関係書のイギリス以外の諸国訳を最も少なく数えますと、Ⅲの欄は10点となりⅣの欄は16点となります。逆にⅣの欄のなかから、フランス語からの重訳を探しますと3点(2, 5, 8)あります。これらをⅢの欄に加えますと、つまりフランスの経済学書のイギリス以外の諸国訳を最も多く数えますと、Ⅲの欄は21点となります。Ⅲの欄を最も少なく数えますと、ⅢとⅣの関係は10点对16点となり、Ⅲの欄を最も多く数えますと、ⅢとⅣの関係は21点对5点となります。前者の数え方をしますと、英仏の経済学書の両国以外の諸国への普及にかんしては、やはりイギリスの方により大きな影響力が感じられますが、後者の数え方をしますと、圧倒的にフランスの方に大きな影響力が感じられます。これをさらに英仏から学んだ諸国別にみても、ドイツは計10点のうち、フランスからは少なくみて4点、多くみて9点、イギリスからは少なくみて1点、多くみて6点、スウェーデンは計8点のうち、フランスからは少なくみて4点、多くみて6点、イギリスからは少な

くみて2点、多くみて4点を学んでいます。以上のことを整理してみますと、フランスは圧倒的に多くをイギリスに学びましたが、イギリスはフランスからは僅かな技術論と自由放任論しか学んでいません。立ち遅れたフランスが経済的先進国イギリスに大いに学ぶのはごく自然なことです。しかしフランスより遅れた諸国、とくにドイツとスウェーデンは英仏からほぼ半々に学んでいます、どちらかといえばイギリスよりもフランスから学んでいるといえないでしょうか。これだけの資料ではあまり確かなことは言えませんし、それぞれの国とそこで影響力のある外国語、たとえばイタリア、スペインにとってのフランス語、ドイツ、スウェーデンにとってのイギリス語の関係のような場合、わざわざ翻訳せずに直接その外国語で読むため、かえって翻訳は少なくなるということもあるでしょうから、決して一概には言えませんが、当時フランスを生産力の点で追いつけていたドイツが後進国のなかでは英仏から最もよく学び、あるいはイギリスからよりは、むしろイギリスに追いつこうとするフランスの姿勢からより多くを学ぶということもまたありうるのではないのでしょうか。この見方で言えば、ドイツよりさらに遅れていたはずの、しかし軍事的にも文化的にも力を伸ばしていたスウェーデンがデンマークを越えて英仏、とくにフランスに多くを学ぶということもまた自然に説明できるだろうと思います。ドイツにしてもスウェーデンにしても学ぶ内容はいずれも自由と保護の両面の政策だったのです。

スウェーデンの場合には、このほかにも事情があったようです。1750年代のフランスの経済学の動きにグルネという影の人物がいましたように、スウェーデンにも、影ではないと思いますが、有力な人物がいました。それはシェファー (Scheffer) という人物です。彼はフランスに駐在して大使をつとめたあと、帰国後は皇太子の師傳であった人でした。ストックホルムの王立文書館で調べてみますと、シェファーは全6巻の書簡と手稿類を残しています。多くのフランスの経済学者たちとの往復書簡や英仏の書物からの書抜きにシェファーの勉強ぶりが偲ばれます。このシェファーが中心となって、あるいは中心人物の一人となって盛んに英仏からの学問の輸入、翻訳を行ないました。スウェーデンの翻訳の一つの特徴は多くの場合、どんな大書でもおよそ100ページ以内に抜粋あるいは部分訳するということです。急いで要点のみを伝えるという感じです。たとえばミラボの『人間の友』は大冊で4巻ほどの大著ですが、これを64ページ(Ⅲの18)に圧縮してしまい、あるいはフォルボネを翻訳する場合には、ドイツ訳(Ⅲの5)のように大部な『商業要論』(Eléments du commerce)を訳すのではなく、『商業要論』よりもエッセンシャルな、しかし非常に簡潔な論考『商業と財政の研究を政治学研究のなかに含める必要についての考察』(Réflexions sur la nécessité de comprendre l'étude du commerce et des finances dans celle de la politique)を選んで翻訳する(Ⅲの15)という方法をとっています。チャイルドの『新交易論』(Ⅳの4)は「債務の譲渡にかんする章」だけを16ページにして出版しています。また1760年の出版になりますので、このリストには出ていないのですが、外国人の帰化を受け入れて労働力を増やそうとしたタッカーの『帰化論』の場合は、これを原著からではなく、グルネのすすめで原著の第Ⅱ部だけを訳したチュルゴのフランス訳(Ⅰの24)を底本とし、これをさらに抄訳する、ただし、多分グルネのすすめだと思いますが、チュルゴがつけた訳注までスウェーデン語に訳すという面白い方法をとっています。さきに例としてあげましたチャイルドの『新交易論』はイギリス語から訳されたと書かれています。カルペパーの翻訳(Ⅳの5)はフランス語から訳されたと書かれています。これはすこし不自然なのです。カルペパーの『反高利論』はもともとチャイルドが自説を先輩の説で補強するために同じ一つの本として出版し、グルネもフランス訳では同じ一つの本として翻訳したのです。なぜカルペパーだけフランス訳から訳されたのでしょうか。これはよくわかりません。ただスウェー

ーデン訳の出版については、グルネの助言があったように思えます。それは、シェファーが直接グルネと会って、グルネの手稿から翻訳を出版しているケースがあるからです。Ⅲの(9)のグルネの『商業と製造業の自由にかんする二つのメモワール』がそれです。これも80ページのもので、しかしグルネは一冊も著書を出版していませんから、翻訳のしようがないはずですが、ここに訳されていますのはグルネが通商監督官に就任して間もなく、1753年にリオンの商業会議所にあてて、ギルドの規約を廃止するよう求めた行政書簡です。これは現在リオンの商業会議所にありますが、当時は関係者しか知らないはずですし、シェファーがグルネから手稿のコピーをもらって訳出したとしか考えられません。また翻訳の序文には、私がまだ実際に確認したことのない書簡が引用されています。これは不思議な翻訳です。ここにもグルネのひそかな影があるようです。しかしスウェーデンはこうして、ずばぬけて熱心に、イギリスとフランスから自由と保護とを学んだようです。

I**Journal des sçavans***1753*

- ① avril Théorie et pratique du commerce et de la marine, etc. (Ustáriz-Forbonnais)
- ② août Rétablissement des manufactures et du commerce d'Espagne. (Ulloa-Plumard de Dangeul)
- ③ oct. Le Négociant anglois, etc. (Ch. King, Davenant-Forbonnais)
- ④ déc. Considérations sur les finances d'Espagne, etc. (Forbonnais)
- ⑤ " Mémoire sur le port, la navigation et le commerce du Havre de Grace, etc. (M.*** Associé de l'Académie de Rouen)

1754

- ① juin Dissertation sur l'état du commerce en France, etc. (Claude Carlier) Académie d'Amiens
- ② " Remarques sur les avantages et les désavantages de la France et de la Grande-Bretagne, etc. (Plumard de Dangeul)
- ③ août Remarques . . . suite
- ④ sept. Elémens du commerce, etc. (Forbonnais)
- ⑤ nov. Traités sur le commerce, etc. (Child-Gournay et Butel-Dumont)

1755

- ① janv. Traité de la culture des terres, suivant le principe de M. Tull, etc. (Duhamel du Monceau)
- ② " Histoire et commerce des colonies angloises, etc. (Butel-Dumont)
- ③ mars Traité de la culture des terres, . . . suite
- ④ juin Mémoires sur les laines, etc. (Claude Carlier) Académie d'Amiens
- ⑤ " Essai sur l'état du commerce d'Angleterre, etc. (John Cary-Butel-Dumont)
- ⑥ " Essai sur l'état du commerce d'Angleterre, etc. . . . suite
- ⑦ juillet Dissertation sur la cause qui corrompt et noircit les grains de bled dans les épis, etc. (Tillet) Académie de Bordeaux
- ⑧ sept. Essai sur la nature du commerce en général, etc. (Cantillon)
- ⑨ nov. Questions sur le commerce des François au Levant, etc. (Forbonnais)
- ⑩ déc. Examen des avantages et des désavantages de la prohibition des toiles peintes, etc. (Forbonnais)

1756

- ① avril Essai sur la police des grains, sur leur prix, et sur les effets de l'agriculture, etc. (Herbert)
- ② " Traité de la culture des terres, etc. . . . suite
- ③ juillet La noblesse commerçante, etc. (Coyer)
- ④ août La noblesse militaire, ou le Patriote françois, etc. (d'Arcq, Sainte-Foix)
- ⑤ sept. Dissertation sur le commerce, etc. (Belloni)

- ⑥ déc. Essai sur l'admission des navires neutres dans nos colonies, etc. (Forbonnais)
- ⑦ " Discours sur les vignes, etc. (Herbert)

1957

- ① janv. Introduction sur la manière d'élever et de perfectionner les bêtes à laine, etc.
- ② août Etablissement d'une Société d'agriculture, de commerce et des arts dans la province de Bretagne, etc. (Abeille et Montaudouin)
- ③ sept. Développement et défense de la noblesse commerçante, etc. (Coyer)
- ④ nov. L'Ami des hommes, ou traité de la population, etc. (Mirabeau)
- ⑤ déc. Discours pour et contre la réduction de l'intérêt naturel de l'argent, etc. (Gua de Malves)

1758

- ① fév. L'Ami des hommes, ou traité de la population, etc. . . . suite
- ② mars L'Ami des hommes, ou traité de la population, etc. . . . suite
- ③ avril Traité de la culture des terres, etc. . . . suite
- ④ juillet Histoire du commerce et de la navigation des peuples anciens et modernes, etc. (d'Arcq, Sainte-Foix)
- ⑤ août Remarques sur plusieurs branches de commerce et de navigation, etc. (O'Héguerty)
- ⑥ sept. Recherches et considérations sur les finances de France, depuis l'année 1595 jusqu'à l'année 1721 (Forbonnais)
- ⑦ nov. Essai sur l'amélioration des terres (Pattullo)
- ⑧ " Recherches et considérations sur les finances de France, etc. . . . suite
- ⑨ déc. L'Ami des hommes; quatrième partie, etc. . . . suite
- ⑩ " Recherches et considérations sur les finances de France, etc. . . . suite

1759

- ① juillet Reflexions sur les avantages de la libre fabrication et de l'usage des toiles peintes en France, etc. (André Morellet) Et Examen des effets que doivent produire dans le commerce de France l'usage et la fabrication des toiles peintes, etc. (Moreau, J.N.)
- ② août Essai sur l'administration des terres, etc. (Bellial des Vertus)

Journal œconomique

1751

- ① mars Dissertation sur le commerce, tirée de celle du marquis Belloni, publié à Rome en 1751
- ② avril Lettre à l'auteur du Journal œconomique, au sujet de la dissertation sur le commerce de M. le marquis Belloni (marquis d'Argenson)
- ③ juin Réponse de l'auteur du Journal œconomique à la lettre qui lui a été adressée au mois d'avril dernier, au sujet de la dissertation sur le commerce de M. le marquis Belloni

1752

- ④ mai Lettre sur la liberté du commerce. Par M.M.D.B.I.D.C.

1753

- ⑤ août Calcul des richesses et des dettes de la nation. (Essai sur les dettes nationales par Hook *Extrait des journaux d'Angleterre*

1754

- ⑥ févr. Réflexions sur un nouvel écrit, intitulé: Essai sur la police général des grains (Herbert)
- ⑦ mai Sur la liberté dans le commerce des grains (Herbert)
- ⑧ " Sur les mémoires de M. Joshua Gée (Considérations sur le commerce et la navigation de la Grande-Bretagne) *Avis œconomiques d'Angleterre* → juin, juillet, août, sept., oct., nov., déc., et janvier, mars 1755
- ⑨ sept. Discours sur la balance du commerce, par M. Hume d'Edimbourg → nov.

1755

- ⑩ mai Ecrit trouvé parmi les papiers de M. Gée après sa mort → juin
- ⑪ juin Articles principaux de l'acte de la navigation angloise, dont il est souvent fait mention dans les différens mémoires de M. Joshua Gée
- ⑫ août Du commerce des grains. Sentiments sur l'Essai sur la police général des grains (Herbert) → sept., oct., et nov.
- ⑬ sept. Essai sur les avantages et les désavantages de la France et de la Grande-Bretagne, par rapport au commerce, traduit de l'anglois de M. Tucker → oct., nov., déc. et janv., févr., mars, avril, mai 1756 *Avis œconomiques d'Angleterre*

1756

- ⑭ juin Extrait de l'Essai sur les causes et la décadence du commerce étranger (Decker)

1757

- ⑮ nov. Etablissement d'une Société d'agriculture, de commerce et d'arts dans la province de Bretagne. (Abeille et Montaudouin)

II

I フランス訳

1749

- ① Gee, Joshua — Considération sur le commerce et la navigation de la Grande-Bretagne. Ouvrage traduit de l'anglois de M. Joshua Gee, sur la quatrième édition. Londres, xxviii, 268 p.

1750

- ② Gee, J. — Considération sur le commerce et la navigation de la Grande-Bretagne. ... Genève, 24, 215 p.
- ③ Gee, J. — Amsterdam, xxviii, 242 p.
- ④ Duhamel du Monceau — Traité de la culture des terres, suivant les principes de M. Tull, anglois ... Paris, → 1760.

1751

- ① [Postlethwayt, Malachy] A dissertation on the plan, use, and importance of the Universal Dictionary of Trade and Commerce. Tr. from the French of ... Mons. Savary ... accommodated to the trade and navigation of the British Empire. London, 53 p.

- ② Réaumur, R. A. Ferchault de — The art of hatching and bringing up domestic fowls, by means of artificial heat ... Translated from the French. London. 61 p.

- ③ Sully, Max. de Bethune — The memoirs of the Duke of Sully; ... London, 2 vol.

- ④ Uztáriz — The Theory and practice of commerce and maritime affairs. London.

- ⑤ Witt, J. de — A small collection of valuable tracts, relating to the herring fishery; ... London.

- ⑥ Postlethwayt, M. — The Universal Dictionary of Trade and Commerce. Translated from the French of celebrated Monsieur Savary ... with large additions ... London. 1751-1755, 3 vol.

1752

- ⑦ Belloni, Girolamo — A dissertation on commerce, clearly demonstrating the true sources of national wealth and power, together with the most rational measures for acquiring and preserving both. The whole deduced from the nature of trade, industry, money and exchanges. Tr. from the Italian. London.

III

フランス書のイギリス以外の諸国訳

IV

イギリス書のフランス以外の諸国訳

- ① Gee, J. — Aanmerkingen over den koop-handel en de zeevaart van Groot-Brittanje ... Uit het Engelsch vertaalt. Amsterdam.

- ① Melon, J. F. — Et politiskt försök om handel, öfvers, ifrån fransöskan efter nyaste upl., hvilken är tilökt med sju capitel, och upfyld på de ställen, som i de förra upl. blifvit lennade öpne. Stockholm.

- ② Duhamel du Monceau — Abhandlung von dem Ackerbaue, nach den Grundsätzen des Herrn Tull, ... Dresden.

1753

- ⑤ Uztáriz, Gerónimo de — Théorie et pratique du commerce et de la marine. Tr. libre sur l'espagnol ... sur la 2^e éd. de ce livre à Madrid en 1742. Paris.
- ⑥ Ulloa, Bernardo de — Rétablissement des manufactures et du commerce d'Espagne ... Tr. de l'espagnol. Dédié à Philippe V et publié à Madrid en 1740. Amsterdam.
- ⑦ King, Charles (Ed.) — Le Négotiant anglois, ou Traduction libre du livre intitulé: The British Merchant contenant divers mémoires sur le commerce. Publié pour la première fois en 1713. Dresde et Paris.

1754

- ⑧ Child, Josiah — Traités sur le commerce et sur les avantages qui résultent de la réduction de l'intérêt de l'argent par Josias Child ... avec un petit traité contre l'usure par Thomas Culpeper. Tr. de l'anglois. Amsterdam et Berlin.
- ⑨ Hume, David — Discours politiques de Mr. David Hume. Traduits de l'anglois. Par Mr. de M*** [Eléazar Mauvillon] Amsterdam.
- ⑩ Hume, D. — Discours politiques de Monsieur Hume. Traduits de l'anglois. Amsterdam et Paris. 2 vol. [Par l'abbé Le Blanc]
- ⑪ [Tucker, Josiah — Plumard de Dangeul] Remarques sur les avantages et les désavantages de la France et de la Grande-Bretagne, par rapport au commerce, et aux autres sources de la puissance des Etats. Tr. de l'anglois du chevalier John Nickolls. Leyde.
- ⑫ — Leyde, 2^e éd.
- ⑬ — Leyde, et Paris. 3^e éd.
- ⑭ — Dresde, 3^e éd. augmenté d'un Essai sur la police et le commerce des grains.
- ⑮ — Amsterdam, nouv. éd.
- ⑯ Select essays on commerce, mines, agriculture, fisheries and other useful subjects. London. (Extract and transl. of *Journal économique*).
- ⑰ [Tucker, J. — Plumard de Dangeul] Remarks on the advantages and disadvantages of France and of Great-Britain. With respect to commerce, and to the other means of increasing the wealth and power of a State. Being a (pretended) translation from the English, written by Sir John Nickolls, and printed at Leyden 1754. London.

- ② Gee, J. — Consideraciones sobre el comercio, y la navegacion de la Gran-Bretaña: escritas en Inglés por Mons. Joshua Gee. Traducidas al Francés. Madrid.

- ③ Della moneta, controversia agitata tra due scrittori oltramontani, i signori Melon e Du Tot, si è aggiunto in fine un opuscolo sua stessa materia del francese. Venezia.

- ④ [Tucker, J. — Plumard de Dangeul] Öfversättning, af Angelika Riddaren John Nickolls Tankar om stora britaniens Tankar öfver Frankriket. . . . Stockholm. 23 p.

- ③ Hume, David — Herrn David Hume, esq. Vermischte Schriften über die Handlung, die Manufacturen und die andern Quellen des Reichthums und der Macht eines Staats. Aus dem englischen übersetzt . . . Hamburg und Leipzig → 1756. 4 vol.

⑩ Bolingbroke — Testament politique de milord Bolingbroke, écrit par lui-même; ou Considération sur l'état présent de la Grande-Bretagne, principalement par rapport aux taxes et aux dettes nationales, leurs causes et leurs conséquences. Tr. de l'anglois. Londres.

⑪ Recueil d'actes et pièces concernant le commerce de divers pays de l'Europe. No. premier; contenant les discours prononcés au Parlement d'Angleterre, dans la chambre des pairs, pour et contre la liberté du commerce au Levant, avec la bill, ou loi intervenue qui étend cette liberté à tous les ports et tous les sujets de Grande-Bretagne. Londres.

1755

⑫ Hume, D. — Discours politiques de Monsieur Hume. Traduit de l'anglois. Nouvelle édition. Par Monsieur l'abbé le Blanc. Dresde 2 vol.

⑬ Herbert, Claude Jacques — Essays on the police des grains, on the value and effects of agriculture. Berlin.

⑭ Child, J. — Traités sur le commerce et sur les avantages ... Amsterdam.

⑮ King, Ch. (Ed.) — Le Négociant anglois ... Amsterdam.

⑯ [Cantillon, Richard] Essai sur la nature du commerce en général. Tr. de l'anglois. Londres.

⑰ Belloni, G. — Dissertation sur le commerce. Tr. de l'italien. La Haye.

⑱ [Cary, John] Essai sur l'état du commerce d'Angleterre. [Tr. de l'anglois et considérablement augm. par G. M. Butel-Dumont] Londres.

⑲ Tucker, J. — Questions importantes sur le commerce à l'occasion des oppositions au dernier bill de naturalisation, ouvrage traduit de l'anglois de Josias Tucker. Londres.

- ⑤ [Forbonnais] Der vernünftige Kaufmann, oder theoretische und practische Grundsätze der Handlung in und ausser Deutschland ... Hamburg und Leipzig.
- ⑥ [Butel-Dumont, Georges Marie] Geschichte und Handlung der englischen Colonien in dem nördlichen Amerika, ... Frankfurt am Mayn.
- ⑦ [Butel-Dumont, G.M.] Der engländischen Pflanzstädte in Nord-Amerika. Geschichte und Handlung ... Stuttgart.

1756

- ②⑤ [Cantillon, R.] Essai sur la nature du commerce en général, . . . Londres.
- ①① Sully, Max. de Béthune — Memoirs of Maximilian de Bethune, duke of Sully, . . . London.
- ②⑥ Belloni, G. — Dissertation sur le commerce. Par Mr. le marquis Jérôme Belloni, banquier de Rome, traduite de l'italien. La Haye.

1757

- ②⑦ Discours pour et contre la réduction de l'intérêt naturel de l'argent, qui, ayant été prononcés en 1737, dans la Chambre des communes du Parlement de la Grande-Bretagne, occasionèrent, en ce pays, la

- ⑧ Geographische und historisch-politische Nachrichten von dem jenigen Theil des nördlichen Amerika, um dessen Gränzen, zwischen den Franzosen und Engländern, gegenwärtig Krieg geführt wird. Frankfurt und Leipzig.
- ④ Child, J. — Riddaren Josiah Child tankar om reversers transporterande från en til en annan, utdragne utur dess tal om handel, och öfversatte af engelskan til det allmännas tjänst vid riksdagen år 1756. Stockholm. 16 p.
- ⑨ [Gournay, Jacques Claude Marie Vincent de] Tvänne memorialer angående frihet i handel och slögdénäringar. Öfversatte ifrån fransyskan. Stockholm. 80 p.
- ⑤ Culpeper, Thomas — Afhandling emot hogt penninge interesse. Förswänskad ifrån fransöska öfwersättningen. Stockholm. [10], 27 p.
- ⑩ [Tucker, J. — Plumard de Dangeul] Anmärkninger over Frankriges og Engellands Fordeele og Mangeler i Hanseende tie Handelen og andre Kilder til Landes Magt og Styrke. Oversatte af det Franske med nogle fea af Oversætteren tillagde Noter. Kiøbenhavn.
- ⑥ Davenant, Charles — Afhandling angående sätt och utvägar, hvarigenom et folk kam vinna uti handels-vågen, öfvers. ifrån engelskam. Stockholm. [16], 246 p.
- ⑪ [Butel-Dumont, G.M.] Die Geschichte der Errichtung und des Handels der englischen Colonien im Mitternächlichten Amerika. Aus dem Französischen. Rostock und Wismar.
- ⑫ [Coyer, Gabriel François] Der handelnde Adel, dem der kriegesische Adel entgegen gesetzet wird ; zwey Abhandlungen über die Frage: ob es der Wohlfarth des Staats gemäss sey, dass der Adel Kaufmannschaft treibe? Aus dem Fronzösischen übers, ... Göttingen.
- ⑬ [Herbert, Cl. J.] Versuch einer allgemeinen Kornpolizei, nebst zwoen Abhandlungen, über die Preise und den Landbau. Aus dem Französischen ... übersetzt ... Berlin.
- ⑭ Melon, J. F. — Des Herrn von Melons gesammelte kleine Schriften über die Handlung und Manufacturen übersetzt. Kopenhagen.
- ⑮ [Forbonnais] Tankar om nödvändigheten at innefatta handels-och finance-kunskap uti stats-vetenskapen ; det allmänna til tjenst, af det franska originalet i svenskan öfversatte. Stockholm. 38 p.
- ⑦ Gee, J. — Des Herrn Josuä Gee Schrift von der Handlung der Grossbritannier. Aus dem englischen übersetzt. Kopenhagen.

réduction de 4 à 3 %. Tr. de l'anglois, et précédés d'un avant-propos fort étendu de la composition du traducteur . . . Wesel et Paris.

- ②⑧ Decker, Matthew — Essai sur les causes du déclin du commerce étranger de la Grande Bretagne. [s.l.]

1758

- ②⑨ Uztáriz, G. — Théorie et pratique du commerce et de la marine. Liège. 6 vol.

1759

- ③⑩ L'avocat désintéressé, ou Réfutation de l'examen du droit que les Hollandois prétendent avoir, en vertu de leur neutralité, de faire le commerce pour les François etc. Traduit sur le manuscrit anglois . . . Traduction du R. P. Sanadon, éd. de Paris, 1756.

- ③⑪ Essai de la Société de Dublin, traduit de l'anglois. Paris.

- ⑧ Cary, John — Storia del commercio della Gran Bretagna ... Tr. in nostra volgar lingua da Pietro Genovesi ... Con un ragionamento sul commercio in universale, e alcune annotazioni riguardanti l'economia del nostro regno di Antonio Genovesi ... Napoli.

- ⑩ [Tucker, J. — Plumard de Dangeul] Osservazioni sopra i vantaggi, e svantaggi della Francia, e delle Gran Bretagna rispetto al commercio, e all'altre fonti della potenza negli stati. Venezia.

- ⑪ Melon, J. F. — Forsøg til en politisk Afhandling om Handel. Oversatt af Fransk. København.

- ⑫ Mirabeau, Victor Riquetti — Tankar om sedernas werkan på folkmangden i et land. Stockholm. 64 p.

一橋大学社会科学古典資料センター

Study Series. No.1

発行所 東京都国立市中2-1

一橋大学社会科学古典資料センター

発行日 1982年3月31日
